

第2回木曽路ロングトレイル木祖村ルート検討会 議事録

○日 時 令和7年8月26日(月) 18:30～20:10

○場 所 木祖村役場2階大会議室

○参加者 14名(文化財保護審議会4名、木祖村観光協会3名、商工会1名、木曽広域連合1名、実行委員会4名、システムベンダー1名)

1 あいさつ(事務局)

- ・予定の方が集まったので、これより第2回木曽路ロングトレイル木祖村推奨ルート検討会を開会する。今回はイントロダクションで木曽路の現状や木曽路歩行ルート調査結果、伊能図について説明して様々なご意見をいただきたい。本日は古地図の収集と既知点探しを行うことで伊能図のGIS化に取り組んでいただく。伊能図のGIS化を通してロングトレイル化の参考にしていきたいと考えている。ざっくりばらんに進めていければと思う。

2 古地図の収集と既知点探し

- ・(システムベンダーよりGISと幾何補正について資料に沿って説明。)
- ・今の説明で不明な点はあるか。伊能図自体は画像データになる。元の地図をカメラで撮影したものを入力しており、縮尺も方位も分からないので、GIS化するには補正をしないとイケない。飛騨街道追分の1箇所ははっきりしているが、もう一点既知点があれば方位や縮尺が修正でき、現代の地図に重ね合わせることができる。(事務局)
- ・伊能図の道筋を今の地図に置くことで伊能忠敬の歩いた道をどこかを追及するということだが、伊能図そのものは、井上ひさしが書いた「四千万歩の男」に書かれている。伊能は歩幅で正確に調べられるように訓練したり、曲がり角の角度を測ったりして、夜も寝ずにまとめたとされている。そうは言っても人が書いた地図であり、長さや角度の誤差があることを前提にすると、正確にポイントを決めて重ねたとしても、本当に現代の地図と一致するのか怪しくなってくることも考えられる。(文化財保護審議委員)

→本当に正確かどうかは何とも言えないが、既知点が何点かあればある程度の誤差修正ができる。幾何補正の理屈は理解いただいたと思う。(事務局)

→理解はしたが、そういったこと(誤差が全くないという部分)を前提として進めてほしい。(文化財保護審議委員)

→今回は中山道の街道復元が目的ではないので、大体の道筋が分かれば今後のロングトレイルルートの検討の参考にできる。GIS化に固執しているということではなく、皆さんにワークショップとして取り組んでいただきたい。(事務局)

→誤差の少ない地図だということは承知している。(文化財保護審議員)

→イントロダクションでも説明したが、非常に正確であることが分かっており、伊能忠敬が測った地球の大きさと現代の地球の大きさはわずか0.1%の誤差である。緯度方向に関してはほぼ正確である。

- ・資料で伊能図と1/10,000の村図を配付したので、二つを見比べて共通する場所を読み取っていただきたい。(事務局)

○ここから伊能図と村図を見比べながら皆で議論を行う。(発言者省略)

- ・山村甚兵衛陣屋、御関所は特定できると思うが、村外でも既知点として良いか。

→システムベンダーは、村外の情報も持っているので問題ない。

→ただ、陣屋は福島小学校の辺りの広い範囲なので 100m くらいの誤差は出る可能性がある。関所はあまり変わっていないのでは。

- ・味噌川と笹川の合流点はどうか

- ・鳥居峠

- ・吉田の木曾川を渡る場所は、今の吉田橋と変わらないか。

- ・川は当時と変わっているのでは。伊能図を見ると葛沢が今と違うところになっている。吉田の道と川の位置関係は逆ではないか。

→吉田はこれで良いのでは。

→現地に行った際に逆に道があった。福寿草のところから降りてきて川から 10m 高いところに道がずっとある。

→ホケという地籍で、今は橋があるが、それを渡らず川の右岸側に道があったのでは。

→伊能が通った道が別の可能性もある。川の氾濫で動いている可能性もある。

- ・中山道ガイドの際にも、「伊能忠敬はここを通った」という説明もしている。

- ・川の支流が入っていない。菅川と木曾川の合流点は大きく動いていないと思うが。

→塩沢も入っていない。

→味噌川と笹川の合流点も当時と変わっているかどうか何とも言えない。伊能忠敬が書いた山は交会法で測ったと言われており、御嶽山や駒ヶ岳等は正確と言われている。

→川は大雨の氾濫や堤防工事で変わることがおおいに考えられる。

- ・吉田に 1 軒家がかったという情報は既知点として有力になってくると思う。誰の家かが分かり地主が変わっていなければ、公図上で特定することもできる。

→今の地形を見れば一里塚の近所になるのでは。

- ・昔の焼却場の近辺に割橋と書かれているが。

→6 区の割橋（屋号）の茶屋があった場所である。当時はその場所で茶屋を出しており、中山道に太い木を割って橋を架けたから割橋という地名になった。そこに茶屋があり、本業が 6 区の割橋になっている。

→国道 19 号の新しい橋の名前が藪原橋になっており、獅子岩橋や割橋にしてほしいという指摘もある。

- ・德音寺は今も変わっておらず一致するのではないか。

- ・細島から先、現在は川の左岸側に道があるが、当時は右岸側で鍋割平まで繋がっており、鍋割平に今の縁結神社があったとされている。右岸に道がないか探してみたが、川が荒れており見つからなかった。

→細島、柴原、寺平は今でも使われている地名で位置は変わっていないと思う。

→家の数は変わっているが、細島の集落は変わっていないのでは。

- ・伊能図には○と☆印が付いている。○は宿場名、☆は伊能忠敬が星を観測した場所である。伊能忠敬は藪原宿に泊まって星を観測している。

→本陣ではないか。

→本陣でも星を観測できる広い場所がないと泊まらなかったとされているので、当時の藪原宿には広い庭があったのではないかと推測される。

○議論の後に 5 つの既知点を基に幾何補正し村図に重ねた伊能図（A 0 版）を基に皆で議論を行いました。（議事録省略）

次回フィールドワークで见たい場所について意見は（事務局）

→吉田の福寿草の上の辺りは見てみたい。（観光協会）

→どういった観点で提案すれば良いか。町並みなのか、そうでない場所なのか。（文化財保護審委員）

→町並みかどうかは関係なく、伊能図を重ねたものを見て気になるところを挙げていただきたい。（事務局）

- ・伊能忠敬の星の観測場所が蕨原神社の近くになっているという意見も出ている。（事務局）

→井上ひさしの本を読んでみないと分からない。（文化財保護審議員）

→井上ひさしの本は古文書の原文を示しているので詳細が分かると思う。伊能忠敬は幕府の役人なので本陣に宿泊している。（文化財保護審議員）

→過去の文献を参考にしていただき、☆の位置を特定できるか次回までの宿題としたい。星の観測場所が分かれば、今後の検討の一つの要素になりうると思うので次回までに明らかにしたい。峠の茶屋も今と一致しているのでは。（事務局）

→鳥居峠の道が少しずれている気がする。（文化財保護審議員）

- ・次回ワークショップはフィールドワークで吉田を見えることと、蕨の星の観測地点を紐解いていくこととしていきたい。（事務局）

3 木曽路ウォークガイド会の活動について（木曽路ウォークガイド会）

- ・歩くという観点から、NPO 水の始発駅と木曽路ウォークガイド会としての活動を紹介する。

私たちは中山道木曽路に限定したトレイルを実施してきた。1年を通じて塩尻宿をスタートして中津川の美濃平野まで歩いている。完全に中山道木曽路を踏破することを目的としている。その次の年は中津川から塩尻まで歩いている。中山道木曽路を全て歩き終わった後は塩尻峠を経て諏訪大社へ御礼参りを行っている。約 125 km のウォーキングを 10 年続けている。

- ・2023 年からは大桑村の地域おこし協力隊に受付や PR をお願いしており、現在は 10 回／年で開催している。資料の地図に沿って忠実に中山道を歩いてガイドをしている。毎回 40 名前後の参加があり、人数が溢れる場合は、下見の際にガイドをしていることもある。

- ・最近健康志向の参加者もいるが、約半分以上が常連の方で新規参加に繋がっていない部分が課題。また常連の方が多く中山道だけでは物足りない方に向けて、中山道ウォーキングに加えてオプション企画を実施しており、木曽路ロングトレイルに通ずる部分がある。印刷の都合で資料から消えているが、是より南木曽路の碑から小野・岡谷に抜ける「初期中山道」が①である。塩尻の観光協会でも実施しており、洗馬や塩尻宿ができる前の牛首峠を通るコースである。

…（※②以降のオプションコースについては資料記載の内容を説明しているため割愛）

- ・中山道以外にも良い所はたくさんあるが、谷から中に入るため、トレイルのように通しで歩くことが難しい地形である。また、アクセスも良くないためマイクロバスを借りてバスが入れる場所まで行き、そこから歩く形式のため人数も 25 人前後と限られる。御嶽古道も魅力的であるが、山歩きに慣れている方向けであることや遊歩道整備など、中山道以外の場所は課題がたくさんある。

- ・ありがとうございました。水の始発駅の時からお二人にはロングトレイルの先駆けとしてトレイルに関する活動をされてきた。お二人の活動があったからこそこの活動を後世に引き継いだ方が良く強く感じており、今回のワークショップを開催した。実際に様々な場所を歩かれていて意見としても重みがあり、この検討会のメンバーにも入っていただいている。（事務局）

4 中山道ウォーキングマップについて

- ・ガイドマップについて議論をしていきたい。ガイドマップに記載されている地図を村図に落とし込んだものを用意した。
- ・当時の中山道と思われるところを中心にルートが決められていると思う。鳥居峠は当時とほぼ変わらないのではないか。
- ・飛騨街道追分から跨線橋を通るルートが中山道ではないかということで実際に外国人が歩いている人が多い。跨線橋を通らずに進む人も多く、ルートが分かれている部分である。(事務局)

→跨線橋を通るルートも日野屋に出てくるルートも両方とも違う。昔踏切があったルートが本来の中山道である。踏切がなくなったため日野屋の横に車道を作り、歩く方に向けて跨線橋を作った。当時は踏切の両側にも家が並んでいた。みそ屋の坂から真っすぐ町中を見ることができる。(文化財保護審委員)

→推奨ルートとしてまとめるにはどちらが良いかという部分を改めて議論していきたい。(事務局)

- ・小林歯科の辺りは出口町や墓地の前を通るようになっていて、伊能図も参考にしてみると、お墓の前が中山道だったと思われる。実際に歩く人は少ないが、マップ上には出口町を通るようになっており、夜通し走るトレイルランニングの方は、そこを走っている姿を見かけた。
- ・その先は藪沢を渡って、SLの手前を曲がってガード下へ出るルートになっている。当時の中山道ではあるが、前回の検討会で危ない(歩道が無い)という意見が出ているので今後議論が必要である。観光協会が駅前に移転するという話もあり、併せて議論していきたい。
- ・土木遺産の菅橋も緑の点線で表示しているが、趣としてはこういった場所も通っていただきたい。神戸平からは中部北陸自然歩道が設定されており、菅橋で迷い込んでいるという意見も出ている。
- ・吉田地区については、伊能図を重ねたところ、集落の中ではなく福寿草が咲いている山側を通っているようになっているので、次のフィールドワークで確認したい。
- ・山吹トンネルの手前につづら折りになっている点線の歩道マークがあるが、おそらく中山道の面影として残っていると思われる。その先に行けるか分からないので参考までとなる。
- ・ウォーキングマップを村図に落とし込んだことで、今後の議論の材料になるので頭の片隅に置いていただければと思う。(事務局)

5 日本遺産木曽路の活動について

・前回の会議で取組の内容は説明したところだが、その直後に日本遺産の継続審査の結果、再審査ということになり、厳しい状況である。

- ・文化庁の有識者委員が評価をしている。自治体間連携やデータの活用といった個々の指摘も受けているが、木曽地域としてどんなことをやるのかという意義を問われている。地域側が日本遺産を活用して誘客や地域活性化につなげていかないと継続が厳しいと言われている。
- ・それに対して行政としても個別のデータを収集・分析して情報発信に繋げていくことや日本遺産としてのイベント開催を考えていくことを検討している。文化財保護と活用の二つの観点があり、細かいことが分からない部分もあるが、ウォークガイドで個別に日本遺産ストーリーを紹介しながら歩くといったことで伝わる部分があると思う。
- ・「木曽路はすべて山の中」というストーリーは木曽の暮らしが体现されている部分なので、厳しい状況ではあるが、積極的に日本遺産を伝えていただきたい。ロゴマークを使ってもらうことでも活用につながるので、まずは状況と今後の取り組みにご理解いただきたい。

- ・資料として配付したが、9/1（月）に村民センターを会場に、日本遺産木曽路サミット in 木祖村を開催する。木曽の伝統工芸品に焦点を当てて基調講演やパネルディスカッションを行い、伝統工芸の現状や次世代への継承の難しさをお話いただき、伝統工芸品の活用のアイデア出しができればと考えている。月曜日の午後であるが、ご都合のつく方はぜひ参加いただきたい。（木曽広域連合）
 - ・ショッキングな話題である。日本遺産に指定されていた太宰府天満宮などの「西の都」と呼ばれている地域が日本遺産の認定を取り消しされたとのことであるが、木曽は何が足りなかったのか。（事務局）
- 様々なことを言われているが、データを分析して誘客につなげるといった部分である。（広域連合）
- 自治体間の連携も要素になるのか。（事務局）
- 日本遺産木曽路は8市町村で構成されているが、連携が取れているかというのも一つである。（広域連合）
- 連携して実施している事業が目に見えていないと感じた。ロングトレイルであれば連携して取り組めるのではないかな。取り消しが迫っている段階なのか。継続の可能性はあるのか。（事務局）
- 厳しい状況であることに変わりない。9/18に現地確認に来て、書類を見直したうえで文化庁に提出して今年の年末に改めて結果が出る。再審査をもって取り消しになることはないが、結果を今後に繋げられるかが大事になってくる。（広域連合）
- 足りない部分をそれぞれが危機意識をもって打開していくしかないと思う。日本遺産というお墨付きをいただいたのに生かせないのはもったいない。（事務局）

6 その他（質疑応答）

- ・日本ロングトレイル協会のホームページを見たら、新加入トレイルに中山道木曽路が加入されているが、どこで申請したのか。（文化財保護審議員）
- 木曽地域文化遺産活性化協議会で今年の3月に申請して加盟した。（広域連合）
- ルートは決まっているのか。（事務局）
- 木曽路歩行ルート調査事業をもとにルートを出している。ロングトレイル協会自体に発信力があり、情報発信を目的に加盟した。細かいルートは現在調整しているが、詰めて発信に繋げたい。（広域連合）
- 中山道以外のプラスアルファの部分も含めて申請できるのか。（文化財保護審議員）
- 中山道を基本として御嶽古道も支線ルートとして申請している。（広域連合）
- 木祖村でロングトレイルを掘り下げて議論する場を作っているのも、加盟して終わりではなく、各町村や関係者を巻き込んで同じような議論が進めばより良いものになると思う。（事務局）
- ・その他ということで、林野庁で発行している木曽路ナチュラトレッキングマップがあったので紹介させていただく。水木沢天然林や国有林で管理しているところのマップになる。（事務局）
 - ・10月から木曽地域で広域路線バスが運行することになった。ローカル線のダイヤの隙間を埋める役割があったり、開田や王滝まで運行される予定であったりとプラスの材料になるのでは。そういった環境が整いつつある。これを良い機会と捉えて皆さんのお力をいただきたい。（事務局）
 - ・水木沢天然林や鳥居峠のガイドをしている中で、倒木や落木の危険性が出てきている。木曽地域は停

電や道路の通行止めにも繋がりがねない。歩く方々の安全対策や危機管理の部分の議論を重ねていくことも大事な部分であると思う。(観光協会)

→危機管理は非常に大事な部分である。安全であるからこそ発展につながるので、危機管理面を重要視するのは大切なことである。歩行ルート調査事業も安全に歩くことを前提に調査しているのでとても良い意見である。(事務局)

・鳥居峠の入込について、藪原駅でカウントをしていると聞いているが、駅を使わずに峠を歩く方もいるので、正確性に欠けるのではないかな。北分署の辺りにセンサーのようなカウンターを付けて、正確な人員を把握した方が良いのではないかな。馬籠峠では外国人が自分の国旗のところに人数を書くようになっており、どこから来ているか把握できるようになっている。(文化財保護審議委員)

→お金のかかる話になってくるので、今後検討させていただく。(事務局)

→日本遺産の話でデータの活用を重視しているということであれば、広域で取り組むのも良いのではないかな。(事務局)

→広域連合で予算化するかどうかは置いておき、データの活用については話が出ているとおり。データ活用の手法については今後検討していきたい。(広域連合)

→最近では人流データの活用といった話も出てきているので、動きを見ていきたい。(事務局)

・次回のフィールドワークについては、個別に通知を出してご案内する。まとめにむけての作業もお願いしたく、それぞれに課題や意見をまとめていただきたい。(事務局)

・フィールドワークの終了時間は。(湯川)

→半日で終了する予定。役場に戻ってきてまとめに向けての準備作業も行いたい。移動手段のことも含めてまたご案内させていただく。(事務局)